支部のトピックス（北陸支部）

土木系大学・高専への建コンPR

北陸支部では、担い手確保に向け、土木系大学・工業高等専門学校の学生を対象に、建設コンサルタントの役割や魅力を伝えるＰＲ活動に取り組んでいます。令和７年度は、リーフレット配布、学習会、説明会（ＷＥＢ、対面）等を組み合わせ、仕事内容に加えて地域社会との関わりやキャリア形成のイメージが伝わるよう工夫しながらＰＲ活動を行いました。

対象校数	延べ接点数	冊子等配布数	説明会等実施回数	対象者数（延べ）
10 校	14 件	355 部以上	７回	約 350 名

リーフレット等は少なくとも３５５部を配布し、説明会等は７回・延べ約３５１名を対象に行いました。ＰＲにあたっては、最近の学生の紙離れを踏まえ電子データや支部ホームページのＵＲＬの提供も行い、魅力発信として「インフラ整備構想」動画を視聴いただきました。また、新潟県等との連携による小・中・高等学校に対する土木出張ＰＲでも３４校・約１７百人を対象に展開しており、活動の裾野を広げています。

～ 長岡高専における取組み ～

7月実施：説明会

９月実施：建設事業学習会

北陸支部では、長岡工業高等専門学校環境都市工学科の学生を対象に、建設コンサルタントの役割や仕事内容、社会資本整備・インフラメンテナンスの重要性、河川砂防や災害復旧、老朽化対策、技術士資格の取得やキャリアパスなどについて、北陸・新潟県の事例を交えて紹介しました。また、今年新たに開催された長岡工業高等専門学校主催の「キャリアパスを想像できる建設事業学習会」にも参加し、３・４年生計７８名を対象に説明しました。

行政、建設業、測量設計業等の多様な主体とともに、建設コンサルタントの役割に加え、地域を支える技術者同士の関係性や、地元で働くやりがい・達成感について伝えました。

～アンケート・他校事例から見えること～

➢ 金沢工業大学のアンケートでは、多くの学生が「将来技術者として仕事をしたい」と回答しました。

➢ 建設コンサルタントの志望理由、資格取得の難しさ、仕事のやりがいに関する質問が寄せられ、進路選択を意識した関心の高さがうかがえました。

～今後に向けて～

・学生からは、学び・資格・進路・成長に関する質問が寄せられ、将来像を考える機会となりました。

・学校ではAIを取り入れた授業も行われており、建設分野のDXを担う人材としての活躍が期待されます。

・今後も、関係機関と連携し、地域を支える技術者の将来像を伝えるPR活動を継続していきます。